

明日を築くプロジェクトの風景

吉浜道路

地域と一体となった整備で  
高い評価を得たプロジェクト



平成25年10月11日に連結式が行われた吉浜高架橋 (6径間連続PCラーメン箱桁橋)



図1 復興道路等の整備状況



写真1 高田道路開通式

ここでは、当事務所管内の三陸沿岸道路のうち、平成27年度内に開通を予定している「吉浜道路」の概要と整備状況の「見える化」の取り組み、受注企業が自主的に行っている地域との交流とともに整備を進めている様子などを紹介します。

担当している区間は、宮城県境から岩手県山田町までの三陸沿岸道路の事業中区間約44kmと復興支援道路である東北横断自動車道釜石秋田線のうち釜石市内の事業中区間6kmの合計約50kmです。

平成26年3月23日には、三陸沿岸道路のうち、高田道路(陸前高田IC)通岡IC間4.1km)が事務所設置後初めて開通を迎えています。(写真1)

南三陸国道事務所は、平成24年4月6日に、復興道路、復興支援道路の建設の加速化を目的に新設された事務所です。現在、職員41名中、10名が北海道開発局、関東、北陸、中部地方整備局からの応援職員、さらに事業促進PPP3チームを加え、被災地域の早期復興のため1日も早い開通に向けて取り組んでいます。

南三陸国道事務所は、平成24年4月6日に、復興道路、復興支援道路の建設の加速化を目的に新設された事務所です。現在、職員41名中、10名が北海道開発局、関東、北陸、中部地方整備局からの応援職員、さらに事業促進PPP3チームを加え、被災地域の早期復興のため1日も早い開通に向けて取り組んでいます。

南三陸国道事務所は、平成24年4月6日に、復興道路、復興支援道路の建設の加速化を目的に新設された事務所です。現在、職員41名中、10名が北海道開発局、関東、北陸、中部地方整備局からの応援職員、さらに事業促進PPP3チームを加え、被災地域の早期復興のため1日も早い開通に向けて取り組んでいます。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波は、東日本の太平洋沿岸に大きな被害を与えました。これを受け、被災地の早期復興のリーディングプロジェクトとして、平成23年11月の第3次補正予算により、三陸沿岸道路等の新規区間22.4kmが復興道路、復興支援道路として新規に事業に着手しました。(図1)



南三陸国道事務所所長 佐藤 和徳

## 2 吉浜道路の概要

吉浜道路は、宮城県仙台市から青森県八戸市を結ぶ延長35.9kmの三陸沿岸道路のうち、岩手県大船渡市三陸町越喜来～吉浜までの延長3.6kmの自動車専用道路です。吉浜道路に並行する国道45号の8.4km区間は、最小曲線半径40m、最急勾配10%で、設計速度60km/hを満足しない曲線半径150m未満の箇所が33箇所、勾配が5%を超える区間が5.3kmもある道路構造が劣悪な区間です。このため、重大な交通事故も多い状況となっています。

吉浜道路は、このような現道の問題点の解消と災害時等の安全で信頼性の高い道路網の形成のため計画されており、(仮)三陸ICから(仮)吉浜IC間を越喜来(おきらい)高架橋(6径間連続PCラーメン箱桁橋584m)と吉浜トンネル(1644m)、吉浜高架橋(6径間連続PCラーメン箱桁橋373m)でほぼ直線で結び、走行時間も現在の半分以下の約4分に短縮される予定となっています。(表1、図2、図3)

## 3 地域と一体となった道路整備

吉浜道路では、受注した企業がCSR(企業の社会的責任)の一環として、越喜来小、越喜来中学校、吉浜小、吉浜中学校の児童・生徒や先生方、子供たちの家族の方々などと一緒に、まさに地域の方々と一緒に進めていきます。

その一例である平成25年10月に行われた吉浜高架橋の連結式には、吉浜小学校、吉浜中学校の児童・生徒約100人や地域の代表者などが参加し、吉浜地域に伝わる千歳明神太鼓の先導で、地域の方々による最終のコンクリート打設、吉浜小児童による作文や合唱の披露、吉浜中学生徒による「吉中ソーラン」の演舞などが行われ、他の連結式とは一線を画したまさに「地域が主役」となった連結式が行われました。(次のページ写真2、3)

この地域と一体となったCSR活動は、吉浜道路の受注企業で構成される「吉浜道路工事連絡協議会」が主体となって行っていますが、その活動の一部を越喜来高架橋及び吉浜高架橋を受注した川田建設・安部日鋼工業・日本高圧コンクリート特定JVの阿久津所長から紹介していただいているのでコラムの方をご覧くださいと思います。

## 4 見える化の取り組み

南三陸国道事務所管内の復興道路、復興支援道路は、その進捗状況を地域の皆様をはじめ出来るだけ多くの方々にもお知らせする目的で、様々な方法で事業の「見える化」に取り組んでいます。

従来から行われてきている、工事用の看板、土運搬のダンブの正面に事業箇所名を表示するなどの他に、主に事業進捗状況をお知らせする方法について、吉浜道路を例に取り組みの一部を紹介します。

### (1) 進捗状況表示モニターの設置

大船渡市役所のロビーに、吉浜道路の工事の進捗状況を表示するモニターを設けて、市役所を訪れる方々を対象に、主要な工事箇所の写真を中心に2～3ヶ月前の写真と現在の写真を対比できるように表示して事業の進捗状況をお知らせしています。(写真4)

### (2) 道の駅等での説明看板チラシの設置

事業の進捗状況をお知らせする説明看板やチラシを作成し、道の駅等に設置することで、道路利用者の方々などに事業の進捗状況をお知らせしています。

### (3) マスメディアの協力で広域的に情報を発信

事業に関する説明会、測量着手、用地関係説明、主要な構造物の着工



写真3 吉中ソーラン

写真2 吉浜高架橋連結式 最終打設

表1 吉浜道路と並行する国道45号の比較

|        | 現国道45号 | 吉浜道路               | 備考     |
|--------|--------|--------------------|--------|
| 走行距離   | 8.4km  | 4.1km<br>(IC/IC除く) | 約4km短縮 |
| 走行時間   | 10分    | 4分                 | 約6分短縮  |
| Rmin   | 40m    | 2,000m             | 最小曲線半径 |
| Imax   | 10%    | 3.4%               | 最大縦断勾配 |
| R<150m | 33箇所   | 0箇所                | 曲線半径※  |
| I>5%   | 5.3km  | 0km                | 縦断勾配※  |

※設計速度を60km/hとした場合の最大縦断勾配及び最小曲線半径

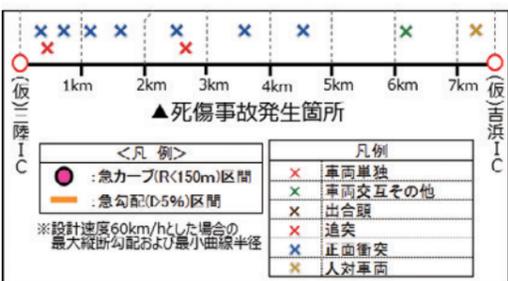
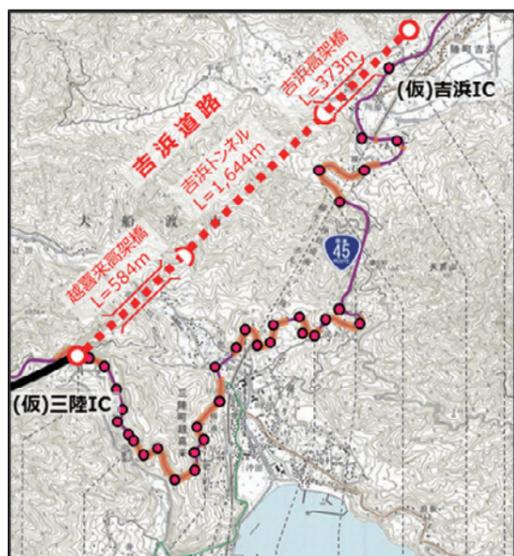


図3 並行する国道45号の隘路及び死傷事故発生箇所

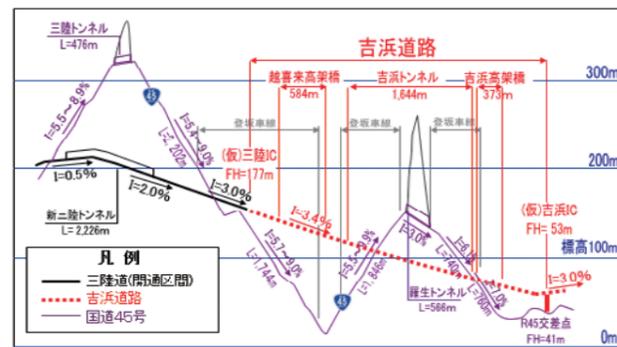


図2 吉浜道路の縦断面図

## 5 おわりに

今回、平成27年度内の開通を目標としている吉浜道路の「見える化」について紹介させていただきました。復興道路、復興支援道路はこれから事業が本格化していく時期にあり、他の事業箇所についても地元の皆様のご協力をいただきながら、用地買収を進め、1日でも早い開通に向けて、事業の見える化を進めながら事務所一丸となって取り組んでいます。

事業に関する説明会、測量着手、用地関係説明、主要な構造物の着工、完成式、津波被災市街地の嵩上げ事業への掘削残土の提供など、事業の進捗に関わるものは、可能なもの全てについて、記者発表などを行い、マスメディアの方々のご協力を頂きながら広域的に事業の進捗状況をお知らせするように努めます。(写真5)



写真5 路線標示板設置時記者説明状況

写真4 進捗状況表示モニター